

「花に宿る物語」

花き装飾コース 吉田 琳

(指導教員: 林 誠)

1. はじめに

私は幼い頃から、散歩の途中で目にする道端の植物や、お祝いの際にもらう花束に興味を持っていた。高校生の頃、親戚の結婚式に参加した際に目にした会場の花装飾に強く魅力を感じたことをきっかけに、花に関わる仕事に就きたいと考えるようになった。一年生の頃は生花店と園芸店の仕事に興味があり、2年生ではブライダル装飾の仕事に興味を持ち、就職先について悩んでいた。しかし、インターンシップを通して生花店で就職したいと強く思うようになった。

生花店でのインターンシップを経験する中で、最も大きな課題だと感じたのが花束制作であった。花の色合わせや花材選びに時間がかかってしまうこと、バランスよく花束を組むことができないこと、さらに花材の使い方のレパートリーが限られてしまうことが課題として挙げられた。

これらの課題を克服するため花束制作の題材は、幼い頃から親しみがあり、意欲的に制作に取り組むことができるもの、明確な色彩や世界観があり色合わせや表現の幅を広げやすいものを選びたいと考え、ディズニー映画をテーマとして花束制作を行うことにした。そのため、卒業制作ではディズニーキャラクターをイメージしたテーマを設定し、花束を10作品制作した。

2. 制作品

(1) 「舞踏会」



(2) 「森と眠り姫」



(3) 「一輪のバラ」



(4) 「眠りの林檎」



3. おわりに

今回の卒業制作では花束を制作する際には、どのような形や色合いにするのか、またどの程度の大きさやボリュームにするのかといった希望を、あらかじめ明確にしておくことの重要性を学んだ。また、自分の考えを整理し作品について全く知らない他者にわかりやすく説明することと、理想のイメージに近い価格に見合った花束を制作することの大切さを学んだ。

花束 10 作品を制作する中で、市場での花材選びや花材の組み合わせ方、花束を組む際の凹凸の付け方、花材ごとの見せ方など、多くの学びを得ることができた。最初の頃はひとつの作品を完成させるのに 2 日ほどかけ、数十回の組み直しを行っていたが、後半に制作した花束では 2 回程度の組み直しで完成させることができた。このことから、自身の技術の向上を数字として実感することができ、制作へのモチベーション向上にもつながった。

一方で、固定観念にとらわれて柔軟な発想ができないなどの課題も見つかった。固定観念を少し崩した柔軟な考え方をさらに増やし、表現の幅を広げていきたいと感じた。

このような気づきや経験を得られたことから、今回の卒業制作は自分にとって大きな成長につながったと感じている。今回の卒業制作で学び、身につけた技術や知識を就職後も活かして、顧客が求めるイメージを的確にくみ取った花束を制作できる、一流のフローリストになりたい。